宇都宮市立今泉小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校のじゅ業の予習をしている」「家で、学校のじゅ業の復習をしている」への肯定的回答率は2項目とも67.3%となった。この数値は県や市の平均を10ポイント以上上回っている。4年生は予習⇒授業⇒復習という学習のサイクルが身に付いている児童の割合が高いと言える。今後も家庭学習と学校での学習を関連付けた継続的な学習指導を行いたい。

○「できるだけ自分ひとりの力でものごとを解決しようとしている」への肯定的回答率は92.9%と高い。また、この数値は市や県の平均を10ポイント上回っている。課題に対して真摯に取り組もうとする児童の意気込みの高さが推察される。これからも児童の意欲が各自の成果とつながるような授業づくりと学習環境の整備に努めたい。

○「地域や社会に起こっている問題やできごとに関心がある」への肯定的回答率は75.5%で、市の平均より8.4ポイント県の平均より9.7ポイント上回っている。このことから、自分が住んでいる地域と児童の関わりの豊かさが推察される。これからも地域の人材や教材を生かした教育活動を設定し、児童と地域や社会のつながりを広げ深めていきたい。

●音楽・図画工作に対して苦手意識を感じたり、将来のために大切な教科という意識が低かったりする傾向が見られた。表現活動や創作活動に取り組む際、児童が自信がもてるような言葉かけや支援を行うと同時に、児童相互に関わり合い学習活動のよさを実感できるような場の設定をしていきたい。

●携帯電話・スマートフォンを持っていない児童の割合は56.1%である。また、持っても平日の利用が30分より少ない児童の割合は30.6%と、全体の86.7%の児童はおおむね問題を有しないと見える。しかし、携帯電話・スマートフォンの平日の使用が1時間を超える児童も学年の9.4%いることから、携帯電話やスマートフォンを安全に節度をもって使用できるように継続的呼びかけていきたい。